

太平洋クロマグロ資源管理と 上対馬地区の漁業の現状について

日昇漁業株式会社 久保幹太

長崎県対馬市上対馬町

2021年12月

自己紹介

・日昇漁業株式会社 代表取締役 久保幹太

2005年12月 漁業就業支援フェアをきっかけに、

東京から脱サラ（元・電気設計エンジニア33歳）してIターンで転職移住

2013年10月 合名会社日昇漁業→日昇漁業株式会社に組織変更

同年 11月 久保幹太が代表取締役に就任（他人間事業承継）し、今に至る。

・日昇漁業（ニッショウギョキョウ）株式会社

大型定置網1ヶ統：

長崎県知事免許（対定1号）の大型定置網漁業権

上対馬町漁協と共同漁業権

日昇漁業株式会社

全員写真 2020年1月撮影



上対馬の漁業の現状

・過去の過剰漁獲(共有地の悲劇、無規制)による魚の減少

温暖化等による魚種変更(サワラなど回遊域北上)、海藻食害魚(アイゴ、トイスズミ、ブダイ等)の群れ回遊増加やウニの大繁殖(実入りが少ないので価値低い)などで磯焼けの進行、および港湾の必要以上のコンクリート化(沿岸域干潟消滅、海底の砂漠化)

→地磯からの収入源消滅(アワビ、ひじき等)、

→生態系環境破壊(魚やイカの産卵場所、稚魚の生育域消滅)

魚市場での魚価の低迷、漁連・漁協の営業力・経営力が乏しい。

燃油価格、漁労機器、資材等の維持経費が高騰

<その結果>

→所得の低下・不安定、後継者の加入が少ない。

→平均年齢の高齢化と人口減少

→漁業関連インフラ(運送、製氷など)および生活インフラ(交通、医療、教育等)の維持が厳しく、漁協組織および地域コミュニティの存続の先行き不安。

クロマグロの漁獲枠について

・クロマグロの漁獲枠は漁協配分から、個人に平均して割り当てられているが、そもそもの重量が少なく操業が非効率的。

南北に長い対馬でも漁法により取れる時期に差がある。

全く漁獲しない漁業者もいるが、移譲の融通が利かないため漁協全体として漁獲枠を余してしまうケースが多い。

漁獲せず実績の無い漁業者も自分の権利(将来に稼げる可能性)をメリット無く簡単に手放したくはないと主張する。

・クロマグロを狙っていなくても釣れてしまう(引縄、延縄)仕掛けを損耗する被害が大きい。→ターゲットの魚が釣れない→収入とモチベーション大幅ダウン。また、ケンサキイカ、スルメイカなどの主要収入源魚種が食いつくされてしまう。と同時に、夜間操業のイカ釣り漁船など集魚灯にマグロが集まり、仕事に大きな支障をきたしている。

・定置網にも他魚種と混ざって入網してしまうが、活きの良いまま再放流するには、手間と時間がかかる。いまのところ強度資源管理の積立プラス(国の補助)で手厚く所得補償されるが、近々、財源破綻で廃止になるのでは?と懸念。

問題解決への道①

・水産資源は、国民共有の財産であるという前提に立ち、食料安全保障、食料自給率、生物多様性保護等を踏まえた上で、国益(全国民の利益)に敵った有効活用のための科学的データに基づく資源管理の徹底を実現する。

身辺整理をして国別漁獲枠交渉を有利に進める。

・国内での個別漁獲枠の融通を可能にする。

・ICTによりリアルタイム情報共有化(需給、相場、トレーサビリティ等):ブロックチェーンを活用したサプライチェーンの実現

・IUU漁業排除、法整備と厳正なシステム化、ダブルスタンダード無しのアウトプットコントロール

(VMS、AIS常時運用義務化、大型船オブザーバー乗船、小型船も操業撮影カメラ設置など)、

・魚種ごとの資源量の推移予測データ収集強化による信頼性の向上と、資源悪化時に臨機応変迅速に漁獲抑制する。

問題解決への道②

- IQ(個別漁獲枠制度)について、漁獲実績と漁獲枠配分には、十分な科学的データ管理と現場ステークホルダーに調整・配慮が必要。

国際海洋法条約の遵守(地域沿岸小規模漁業者の保護)やSDGs、ESGに合致すること。

- 現状の補助金に頼る対症療法的な延命措置を止める方向で、経営体を整理する。 →経営体質の健全化
- 労働生産性の向上、労働環境の向上、従業員満足度の向上、所得向上により地域定着率を上げ、また、水産業界自体の魅力を高め、有能な人材誘引・獲得競争力をアップする。
→いままでおざなりだった分、伸びしろが大いに残っている。